

ふじおか ＜藤岡地域＞

■おいわ^{ぶち}淵伝説

へや
部屋地方は、昔、毎年のように水害に苦しめられていた。田畑が荒らされ、多くの人々の水死が繰り返された。

やがて村人から水害を防ぐために、若い娘を人^{ひとばしら}柱にする

ふうしゅう
風習が起こった。その人^{ひとばしら}柱の一人がおいわであった。

かせんかいしゅう
何回かの河川改修により、今はこのおいわ^{ぶち}淵は姿を消して

いるが、大正7年おいわ^{いなり}稻荷だけは^{へや}部屋地区の帯刀研修館内に

いてん
移転され、つい最近まで村人たちの手^{こうげ}で^{たむ}香華が手向けられていた。